

精神科

廣常秀人

当科には入院病床がなく、院内のコンサルテーションのみに特化し、コンサルテーション—リエゾン精神医学・医療に重点を置いていることから、同領域における研究が中心となっている。現在は救命救急センターに搬送された自殺未遂患者、および虐待に関する研究、HIV患者への精神医学的介入、緩和ケア（がんサポートチーム参照）に関する研究を主としている。また、なのはなチームを主に職員の産業精神保健的介入も研究のテーマである。また各委員の専門領域に関わる臨床研究についても各員の努力で研究を続けている。

【2014年度研究発表業績】

A-0

Independent Validation of the Japanese Version of the EORTC QLQ-C15-PAL for Patients with Advanced Cancer.

Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Sasaki Y, Narabayashi M, Wada T, Matsubara M, Takigawa C, Shinjo T, Suga A, Inoue S, Ikenaga M, Kohara H, Tsuneto S, Shima Y. J Pain Symptom Manage. 2015 Jan 12. pii: S0885-3924(15)00033-0.

Chiaki Kawanishi, Tohru Tohru Aruga, Naoki Ishizuka, Naohiro Yonemoto, Kotaro Otsuka, Yoshito Kamijo, Yoshiro Okubo, Katsumi Ikeshita, Akio Sakai, Hitoshi Miyaoka, Yoshie Hitomi, Akihiro Iwakuma, Toshihiko Kinoshita, Jotaro Akiyoshi, Naoshi Horikawa, Hideto Hirotsune, Nobuaki Eto, Nakao Iwata, Mototsugu Kohno, Akira Iwanami, Masaru Mimura, Takashi Asada, Yoshio Hirayasu : Assertive case management versus enhanced usual care for people with mental health problems who had attempted suicide and were admitted to hospital emergency departments in Japan (ACTION-J): a multicentre, randomised controlled trial. The Lancet Psychiatry Vol.1(3), p193-201, 2014

A-2

廣常秀人、丸山総一郎：心的外傷後ストレス障害とトラウマ。丸山総一郎（編）：「ストレス学ハンドブック」 p 205-220.創元社（大阪）2015年3月

疇地道代、他：統合失調症と健常対象者の前頭葉課題とNIRSを用いた判別分析。武田雅俊、工藤喬（編）：「心のサイエンス—精神医学の進む道—」 p127-132.メディカルビュー社（大阪）2015年3月

疇地道代（編集分担）：「せん妄管理マニュアル第1版」独立行政法人国立循環器病研究センター 緩和ケアチーム、2015年2月（安斉俊久監修、菅野康夫、疇地道代、岩澤真紀子、高田弥寿子 編集）

A-5

廣常秀人分担研究（以下研究協力者）梅本 愛子、吉田 哲彦、疇地道代、山路 國弘、和田 知未、安尾 利彦、大谷ありさ、森田 眞子、岳中 美江：「抗 HIV 療法に伴う心理的負担、および精神医学的介入の必要性とネットワーク形成に関する研究」（研究代表者白阪琢磨：厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「HIV 感染症およびその合併症の課題を克服する研究」平成 24-26 年度総合研究報告書）、p111-118、2015 年 3 月

廣常秀人分担研究（以下研究協力者）梅本 愛子、吉田 哲彦、疇地道代、山路 國弘、和田 知未、安尾 利彦、大谷ありさ、森田 眞子：「抗 HIV 療法に伴う心理的負担、および精神医学的介入の必要性とネットワーク形成に関する研究」（研究代表者白阪琢磨：厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「HIV 感染症およびその合併症の課題を克服する研究」平成 26 年度総括・分担研究報告書）、p95-98、2015 年 3 月

A-6

疇地道代：なのはな便り第 24 回「メンタルヘルス講演会レポート」。大阪医療センター院内報法円坂だより 105 号、pp.4-5、2014 年 6 月

B-3

廣常秀人：「救命救急センターにおける精神医学的問題－精神科医の立場から－」交流集会Ⅴ「精神的問題のある救急患者への対応」、第 16 回日本救急看護学会学術集会、2014 年 10 月、大阪

太田順一郎、廣常秀人（司会）：松岡豊、中川敦夫：倫理委員会主催第 4 回臨床研究教育セミナー「臨床疑問を研究疑問に構造化する」「臨床研究デザイン入門：科学性と倫理」、第 55 回日本児童青年精神医学会総会、2014 年 10 月、浜松

疇地道代、山路國弘、和田知未、廣常秀人：「リエゾン精神科による母子への支援」、児童青年期シンポジウム「総合病院における児童精神科医療の現状と課題（パート 3）母子をめぐる連携」、第 27 回日本総合病院精神医学会総会、2014 年 11 月、筑波

B-4

廣常秀人（座長）：一般演題 57「災害精神保健医療」、第 20 回日本集団災害医学会総会・

学術集会. 2015年2月、東京

B-8

和田知未:「判断同意能力に問題を持つ患者のがん治療チームにおける精神科の関わりについて」

第46回京阪神カンファレンス 大阪 2014年4月

和田知未:「身体治療場面におけるメンタルな側面」 浪速区歯科医師会学術講演会 大阪 2014年5月

和田知未:「せん妄」平成26年度国立病院機構大阪医療センターがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 大阪 2014年11月

廣常秀人:「」平成26年度国立病院機構大阪医療センターがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 大阪 2014年11月

廣常秀人 (司会): 大阪医療センター安全衛生委員会主催ラインケア研修「～身近な事例から知るラインケアの実際～あぁ実感～」(演者: 夏目誠)、大阪、2014年5月

廣常秀人 (講師およびスーパーヴァイズ): 第26回大阪精神療法研究会、講義「力動的面接その26」および症例スーパービジョン 大阪、2014年4月

廣常秀人 (講師およびスーパーヴァイズ): 第27回大阪精神療法研究会、講義「力動的面接その27」および症例スーパービジョン 大阪、2014年8月

廣常秀人 (講師およびスーパーヴァイズ): 第28回大阪精神療法研究会、講義「力動的面接その28」および症例スーパービジョン 大阪、2014年10月

廣常秀人 (講師およびスーパーヴァイズ): 第29回大阪精神療法研究会、講義「力動的面接その29」および症例スーパービジョン 大阪、2014年12月

廣常秀人 (講師およびスーパーヴァイズ): 第30回大阪精神療法研究会、講義「力動的面接その30」および症例スーパービジョン 大阪、2015年3月

廣常秀人 (司会および研修講義): 「HIV感染症患者に対する精神医学的介入の現状と課題」、HIV感染症と精神科医療に関する研修会、2014年2月、名古屋(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究: 分担研究「HIV陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性とネットワ

ーク形成に関する研究」活動の一環として)

廣常秀人 (スーパーバイザー) : 大阪府自殺未遂者支援部会事例検討会、2014年5月、6月、7月、9月、10月、11月、2015年2月

廣常秀人 : 地方独立行政法人宮城県立病院機構宮城県立精神医療センター東日本大震災みやぎ子ども支援センター 児童精神科医等専門職派遣による相談支援、石巻市立釜小学校 2014年7月、9月、11月、2015年1月、3月、石巻

疇地道代 : メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」の案内、大阪医療センター研修医レクチャー、大阪、2015年3月

研究費額

廣常秀人 : 分担研究「HIV陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性和ネットワーク形成に関する研究」(研究代表者白阪琢磨:「HIV感染症およびその合併症の課題を克服する研究班」200万円)